

平成 27 年度人権教育指導者養成事業「人権教育研修会」アンケート集計結果

《意見・感想》

日時：平成 27 年 6 月 18 日（木）14:35 ～

場所：柴田町立槻木中学校 体育館

- 「人権とは何か明確でないまま人権教育に携わってきたが、今日の研修会で人権についての知識が深まった。今後の教育活動に活かしていきたい。【20 代男】
- 今後は子どもたち自身の人権の輪を広げていくことが大切であると感じた。しっかりと子どもたちに向き合い、落ち着いて話すことができる環境を作っていきたい。【20 代男】
- 人権をつなげる、自分の人権を大切にさせることがとても印象に残った。体罰などの問題により、教師の人権を守ることがとても難し世の中になっていると思う。その中で、自分の人生を守るためにはどうすれば良いのか気になった。【20 代男】
- 人権という言葉に対し堅いというイメージがあり、距離を持っていましたが、自分が意識していないだけでなく、なくてはならないものであると改めて実感しました。現在福祉についていただいておりますが、立場的に弱いところにいる人達の「人権」に対し、どう向き合うか考える良い機会になりました。他の分野についても学んでいきたいと思えます。【20 代女】
- 普段子どもたちの心の声を全て聞くことはできないので、チャイルドラインの存在が素直にありがたいと思えました。子どもの SOS を見逃さず、聴く姿勢を常に持ち続けたいです。子どもたちの人権について改めて考える良い機会となりました。子どもたちが心から幸せで楽しいと思えるよう尽力したいと思えます。【20 代女】
- 改めて子どもとの関わり方や見方などを考えさせられました。子どもの話を「聞く」と言うことは、「常に正しいことをもとめられている」という意識があり、自分の考えなどをうまく話すことができませんでした。が、「聞くことが大切」だということを知りました。ぜひこれからは「聞き取り上手」になっていきたいと思えます。【20 代女】
- 普段子どもたちに「人権」という言葉で指導はしていませんが、日頃から人権に関する内容は指導してきています。その指導に難しさを感じながら生活していますが、今回の研修で学んだことを生かしていければと思えます。【20 代男】
- 人権についての見方や考え方が変わり、改めて人権というのはどういうものなのかということを知ることができました。「人権を尊重する」という言葉をよく耳にしますが、本当の意味で人権を尊重することは、自分の周りにいる仲間から尊重され、存在が認められることであるということを知りました。普段子どもと接していく中で、子どもの話に耳を傾け、聞いてあげると言うこと、子どもが安心して楽しい学校生活を送ることができるような環境を救ってあげることがどれだけ重要なことなのかということも知ることができました。今後の教育活動に生かしていきたいと思えます。【20 代男】
- 普段から「人権」ということを意識して仕事をしてきたことが少なかったように思います。子育てもしているのです。子どもや生徒のことを考えて、仕事をするべきだと思えました。【30 代男】
- 「人権」という言葉に固さを感じていましたが、人間に平等に与えられ、周りにある権利ということで、子どもたち自身に関わる尊重されるべきものだということが分かりま

した。我々自身も自分の人権が尊重される。それ同様に子どもたちの人権を尊重すべき役割を我々が担っていることに気づかされました。そしてそれらは守られていくべきなのだろうと感じました。【30代女】

- 震災が子どもたちや大人の中でとても影響を及ぼしていることに胸が痛みました。傷が癒えるまでの時間はかかると思いますが、1日も早くそういう痛みを乗り越えられるようになってほしいです。【30代女】
- 当たり前のことですが、子どもに恥をかかせないこと、子どもの身体を傷つけないこと、子どもの力を信じ話を受け止めることの大切さを今一度考えることができました。全ての子が、安心して、自分を認め、生きることがなかなか楽しいと思ってくれるよう、また仕事をがんばりたいと思います。【30代女】
- 自分の権利ばかりを主張するのではなく、自分のことも他人のことも大切にできるように日頃から人権教育を行っていくべきだと改めて実感した。【40代女】
- チャイルドラインみやぎにかけてくる子どもの実態を知ることができて良かった。クラスの子どもたちは家庭でどのように育てられているのだろうと考えながら話を聞くことができた。子どもたちが発信するSOSを見つけることのできる目を持ちたい。【40代女】
- 子どもがいじめにあいましたが、子どもがいろいろ話をしてくれるので対応することができました。しかし、周りの子どもさんがSOSを出しているということが何となくわかり、学校の方に伝えても、「あなたの子どもではない」という理由でお話をしっかりと聞いてもらえませんでした。でも、今日の先生のお話を聞いて、方法を変えれば誰かを助け、支えてあげることができるかもしれないと思いました。【40代女】
- 毎日の指導においてとても参考になりました。様々な状況におかれている子どもの様子から、何かをつかみ、生かしていきたいと思います。教師の人権はどう守られていくのでしょうか？【40代女】
- 中学生の子どもをもつ親の立場でこの研修会に参加させていただきました。「子育て7箇条」ととても大切だと思いました。私も子どもには「ありがとう」や「ごめんなさい」が言える親でありたいと思います。【40代女】
- 子どもの人権を守るため、親権とのバランスを考えさせられます。虐待家庭における子どもの人権を守ることができず、経過観察が主体となり、生命の危険がなければ分離保護ができない・・・人権を守り子どもの成長過程における良い家庭を築くことができないとき、何をしてやれるのでしょうか？【50代男】
- 私の娘（高校生）が入学した次の日から不登校になり、今現在は保健室登校学習をしています。学校での子どもたちと大切にすると同時に、やはり親として自分の娘を守る思い、妻を守る思いを今回のことで強く持たなければと思うようになりました。「人は一人では生きられない」ですね。ありがとうございました。【50代男】
- 自分の人生、生きてて良かったという所を子どもたちに見せることが子どもの人権を守ることになるという話には考えさせられました。【50代男】
- 今の子どもたちが抱えている問題で、学校生活では分からないことがたくさんあることに気づかされた。どのように対処していくのかのヒントをいただき、今後に生かすことが必要だと思いました。人権を子どもに教えることは難しいことだと思っていたが、普段から何気ないことで関わっていくことで教えていけると感じた。【50代男】

- 子どもたちの話を、いつも余裕を持って相手の心をさぐりながら聞いているのですが、小林さんの考えに共通することが多く感じられました。子どもたちの一つの社会である学校で気持ちよく過ごせるためのスキルを教えていきたいと思います。【50代男】
- 人権というと何か思いもののように感じていました。仕事の中で生徒と関わり話を聞くことで、元気になっていく姿を見ると、私も元気をもらい育てられているように思います。皆が幸せになれるよう、これからも話を聞きます。【50代女】
- 本日はありがとうございました。子どもの話に耳を傾けて、じっくりと聞いて、一緒に良い時間（安心できる時間）を過ごしたいと思います。お母さんに対しても同じです。無関心になりません。【50代女】
- 子どもは国の宝です。その子どもたちがこんなに悩んでいることに驚きました。この声に真摯に向き合うことがより必要とされる社会になっていると感じます。その大きな要因となっているのは貧困だと思います。世の中がボーダレス化することでよりその差が大きくなり、子どもへ向き合う時間が少なくなっていると思います。これは危機です。社会全体で考えていくべき優先課題です。【60代男】
- 校務分掌の「人権教育担当」の影が薄いと感じます。この担当者を中心に各学校での年間教育活動計画の中の「人権教育計画」に私どもの人権啓発活動を少し意識してもらい、意図的・計画的に進めてもらう関係になっていくことを望んでいます。【60代男】

◆研修を終えて

- 「講演1」では、チャイルドラインみやぎの代表としての経験から、現代の子どもたちが抱えている悩みや実態を分かりやすく示していただいた。また、子どもの悩みを受け止める大人（教師）の役割について、具体的に示していただいた。
- 「講演2」では、脳科学や心理学の観点から、仲間から阻害されることが、人間の心と身体に与える影響を示していただいた。その上で、人権が守られている状態とはどのような状態なのかということ、分かりやすく教えていただいた。
- 「質疑」では、現場の先生方が抱える現実的な悩みに、お二人から具体的な対応を示していただいた。
- お二人の話とも、これまでの長い経験に裏打ちされた本質的なものであり、「人権」を身近な目線で分かりやすく感じるができるものであった。このような話を、できるだけ多くの先生方に聞かせていきたい。
- 本研修会の内容について、95%が「とてもよかった」「よかった」と答えている。参加者の70%以上が教職員ということで、意識レベルが高いと思われる。
- この研修により、人権に対する考え方が変わったと答えている参加者が78%と高かった。日頃の学校生活の中で、常に意識していることが分かった。
- 今後も人権について学ぶ機会を必要としている参加者が88%と高かった。このような研修の機会を充実させていく必要があると考える。